

## 接し方でこんなに変わる

「問題行動」を「望ましい行動」へ

畿央大学 准教授  
大久保 賢一

1

## 「ポジティブ」な支援 について検討しましょう！

- ・ 肯定的
- ・ 積極的

2

## 考えてみてください

- ・ 利用者さんに「〇〇してください」と指示をしても、言うことを聞いてくれないとき...よくありますよね(^^)

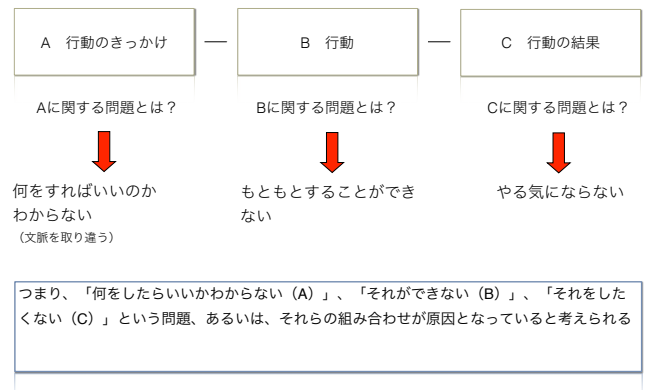
普段、その原因は何であると考えていますか？

そのときの状況を思い出して、色々な「原因でありそうなこと」を考えてみてください。

(例: 「やる気がない」など)

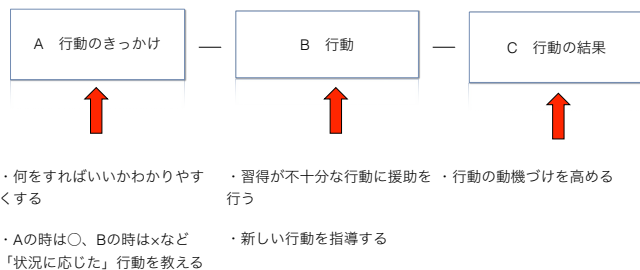
3

## 「してほしいこと」をしてくれないのはなぜ？



4

## 自立的な行動を促すために・・・



5

行動が起こりやすくなるとき  
行動が起こりにくくなるとき

- ・ 人の行動に影響を及ぼす事柄はたくさんありますが・・・
- ・ 重要なものの1つは、「過去の経験」です

6

行動が起こりやすくなるとき  
行動が起こりにくくなるとき

- ・ もう少し、具体的に言えば・・・
- ・ 「〇〇をしたら、□□になった」という過去の経験が、今の行動に影響するということです
  - ・ 勉強したら、褒められた→「よし！また頑張ろうかな♪」
  - ・ スピード違反したら、捕まった→「もう絶対スピード違反はやめよう(>\_<)」

7

行動が起こりやすくなるとき  
行動が起こりにくくなるとき

- ・ 言い換えれば…
- ・ 「行動の“後”に、どのような経験が伴うか」ということが・・・
- ・ 「将来の、その行動の起こりやすさ」に影響するということです

8

行動を変えるためには、  
行動の「後」が大事！

- ・ 私たちは、相手の行動を変えるために、相手の行動の「前」に色々なことを試みます
  - ・ 「頑張りなさい」と励ましたり…
  - ・ 「〇〇をしないといけない理由はね…」と諭したり…
  - ・ 「□□を今やらないと、今に大変なことになるよ！」と脅したり…

9

行動を変えるためには、  
行動の「後」が大事！

- ・ もちろん、それらは無意味ではありません
  - ・ 例えば、多くの知的障害や発達障害のある方にとっては、指示をわかりやすく明確にしたり、スケジュールを示したりすることは、有効なものです
- ・ しかし、それと同じくらい、あるいは、それ以上に大切なのは、相手が何かをやった「後」に、どう対応するかということです

10

## ディスカッション

- ・ 行動が起こりやすくなるのは、行動の後、どのような経験が伴うときですか？
  - ・ (例) 何か行動した後、そのことを他の人からとても褒められた
- ・ 行動が起こりにくくなるのは、行動の後、どのような経験が伴うときですか？

11

## 行動が起こりやすくなるとき

- ・ **うれしい結果が伴うとき (正の強化)**
  - ・ ほめられる
  - ・ ご褒美がもらえる
  - ・ 快感ややりがいを感じる
- ・ **嫌なことがなくなるとき (負の強化)**
  - ・ 怒られなくなる
  - ・ 不快なことがなくなる

12

## 行動が起こりにくくなる時 ①

- ・ 嫌な結果が伴うとき (正の弱化)
  - ・ 怒られる
  - ・ 痛い思いをする
  - ・ 不快な状況になる
- ・ うれしいことがなくなってしまうとき (負の弱化)
  - ・ お気に入りのものを取り上げられてしまう
  - ・ 遊び時間を減らされる

13

## 行動が起こりにくくなる時 ②

- ・ 期待していたことが起こらなかったとき (消去)
  - ・ 話しかけたのに無視された
  - ・ 自動販売機にお金を入れたのにジュースが出ない
  - ・ スイッチを入れたのにテレビがつかない

14

## 行動の原理に反した対応をしていますが？ (例：子どもとのかかわり)

- ・ 望ましい行動を増やし損なう
  - ・ できているのに褒めない
    - ・ 大人「できて当然だもん」
  - ・ 褒めずに次の課題ややることを指示する
    - ・ 子ども「頑張っても、やるが増えるだけだなあ」
  - ・ 一応褒めてみるけど、結局イヤミを言う
    - ・ 大人「甘やかしてばかりだといけなと思って・・・」

15

## 行動の原理に反した対応をしていますが？ (例：子どもとのかかわり)

- ・ 不適切な行動を増やしてしまう
  - ・ 「注目」という「ご褒美」を与えてしまう
    - ・ 大人「どうして何度注意しても反省しないのかしら・・・」
    - ・ 子ども「いいことをしていても、誰も僕のことを見てくれないけど、イタズラをすれば、みんなが僕の方を振り向いてくれる」
  - ・ 大人が根負けして、子どもの要求を無条件に通してしまう
    - ・ 大人「この子はいったん言い出すと絶対に聞かないから」
    - ・ 子ども「努力や我慢をしなくても、ゴネれば思い通りになるぞ」

16

## 注意！対応の「意味」は 「相手の立場」で考える

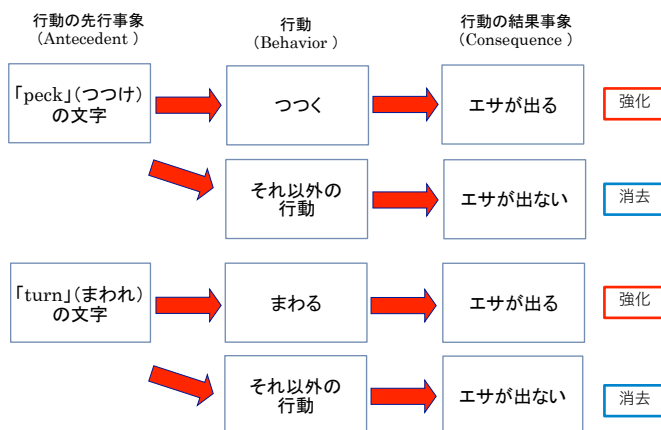
- ・ 褒める→やる気になる **とは限りません！！**
- ・ 叱る→反省する

・ 刺激に過敏な方は、大きな「褒め言葉」を嫌がっているかもしれません  
 ・ こちらが叱っているつもりでも、相手は「注目してもらえた」と喜んでいるかもしれません

・ 「相手にとってどうか」が重要！  
 ・ 実際に行動が増えているか、減っているかを評価することが重要！

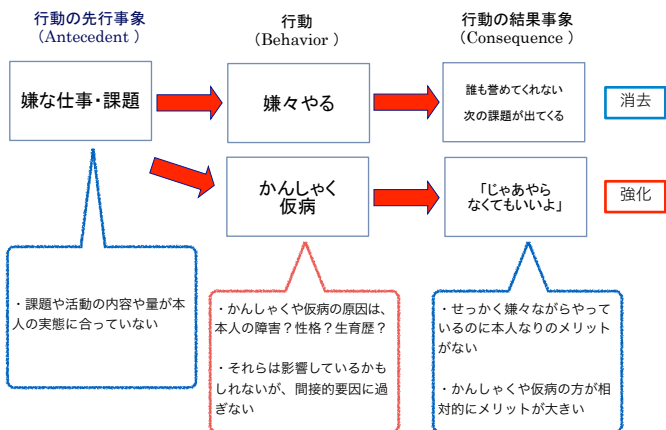
17

## ハトも「行動のABC」を学習する！



18

## 「行動のABC」の例



19

## 今日のような講演をやって 過去に寄せられた感想

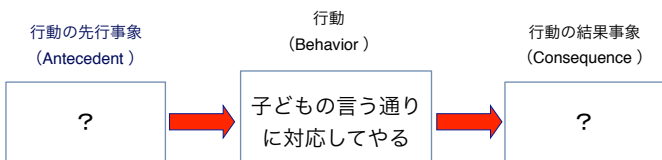
- 「私の対応が間違っていたのだと、反省させられました。今後は、今日教えていただいたことを参考に頑張りたいと思います」
- 「やはりお母さんが子どもの言いなりになっている現状が、問題の原因であることを再認識しました。これからは、行動の原理を率直にお伝えして、毅然とした対応をお願いしますようにします」

大久保の反省 「しまった！これではいけない・・・」

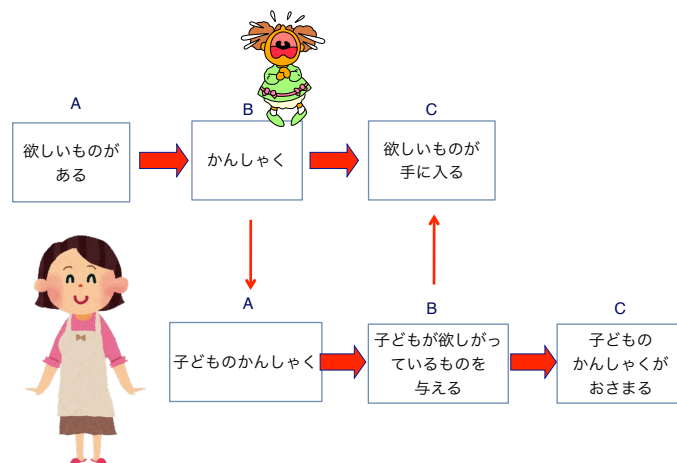
20

## ディスカッション

- かんしゃくを起こす子どもの「言いなりになっている」「お母さんの行動」をABC分析してみましょう。AとCにはどんな事柄が入るでしょうか？



21



22

## この親子の悪循環を分析すると・・・

- 子どもの「かんしゃく」が強化されているけれど・・・
- 母親の「子どものかんしゃくに応じる行動」も強化されている
- 「強化された行動」は、将来起こりやすくなり、定着しやすくなるのだから・・・
- 母親の対応は、「自然なりアクション」であり、この悪循環はある意味で「自然な結果」、「誰にでも起こりえる当たり前の状況」であるといえる

23

## なので・・・

- 悪循環に陥っている当事者を責めないでください
- 悪循環に陥っている自分自身を責める必要ありません

24

## 悪循環を断ち切るために その①

- ・ 対象者のABC、対象者にかかわる人（時には自分自身）のABCを把握する
- ・ 現在の問題が維持されているのは、行動の原理から考えると「当然のこと」であり、ある意味で「仕方のないこと」とであると認識し、そこからスタートする
- ・ 「問題を解決すること」とは、「自然なリアクション」と「あえて違う“不自然な”方法”を実行しようとする（場合もある）大きなチャレンジであることを共通認識する

25

## 悪循環を断ち切るために その②

- ・ 「誰が悪いのか？」→×
- ・ 「どこを変えていけばいいのか？」→○
- ・ 「どこなら変えていけそうか？」→○
- ・ 対象者に成功体験が必要のように、“周囲の人にも”成功体験が必要
- ・ 「こうしてください」だけではなかなか持続しない
- ・ 「やってみたらうまくいった」という経験が伴うことが重要

26

## ディスカッション

- ・ 「望ましい行動は褒めて伸ばしましょう」と言えば・・・
- ・ 「この人、ほめるところがないんです」という訴えがあります
- ・ 確かに「一度もやったことがない行動」をほめることはできません
- ・ 新しい行動を「ほめて育てる」ということはできないのでしょうか？
- ・ 動画を見て考えてみてください

27

## ディスカッション



- ・ イルカにはどのように「やったことのない行動」を教えていると思いますか？

28

## シェイピング

- ・ 目標の行動に「近い行動」をほめる
- ・ 少しずつ「達成基準」を上げていって、目標に近づける
- ・ 今を「X」とせず、「○」として、時々まざる「◎」を増やそうという発想

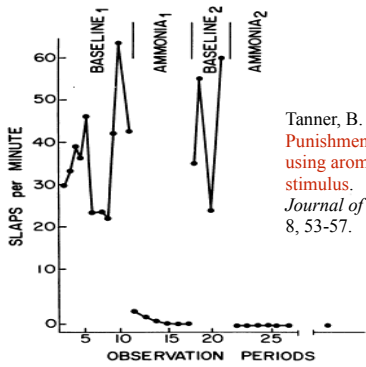
29

## 問題行動に対する対応を考えましょう

- ・ 行動の原理から考えれば・・・
- ・ 問題行動を減らすためには・・・
  - ・ 問題行動に対して「嫌な結果」を伴わせる
  - ・ 問題行動が起こると「お楽しみ」を奪う
- ・ 確かに、30～40年ほど昔は、主に知的障害のある方の「問題行動」に対して、このような「罰的な」方法が用いられていました

30

## 嫌悪刺激を用いた研究



Tanner, B. A. & Zeiler, M. (1975).  
Punishment of self-injurious behavior  
using aromatic ammonia as the aversive  
stimulus.  
*Journal of Applied Behavior Analysis*,  
8, 53-57.

Fig. 1. A record of an autistic woman's face slapping during experimental sessions under baseline and punishment conditions.

31

## ディスカッション

### 「罰的な対応」の問題点を考える

- ・ 罰的な対応には、確かに「問題行動をやめさせる」効果があるようです
- ・ しかし・・・罰的な対応だけに頼ってしまう問題点は何かでしょうか？

32

## 罰的な対応の問題点

- ・ 効果が維持しない
- ・ その人の表現手段を全て奪ってしまう場合がある
- ・ 副作用

33

## 罰的な対応の副作用

- ・ 罰に慣れてしまう
- ・ 「見つからないようにやる」ということだけを学ぶ
- ・ 罰を与える人との関係が悪化する
- ・ 無気力で臆病になる
- ・ 他者をコントロールするとき「罰を使えばいい」というモデルを学習してしまう

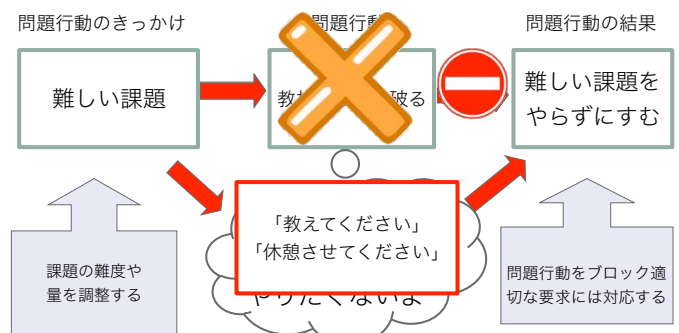
34

## 罰的な対応だけでは なかなかうまくいかない

- ・ 以上のような理由で、「罰的」、「嫌悪的」、「強制的」な方法だけではうまくいきません
- ・ そのことを関係者に理解してもらうことも大切なことです
- ・ 「それでは、問題にどう対処すればいいのか？」という具体的な方法論についてこの後紹介していきます

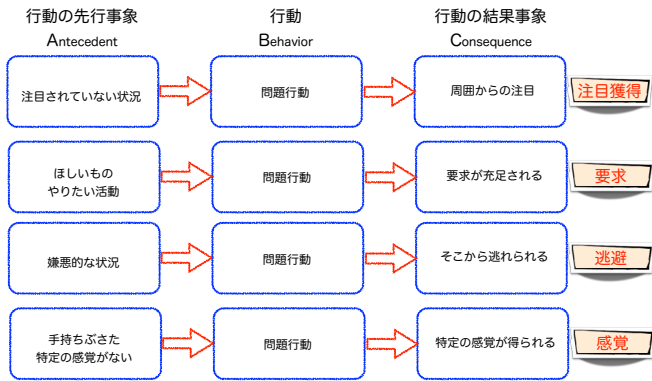
35

## 問題行動に対する対応の基本



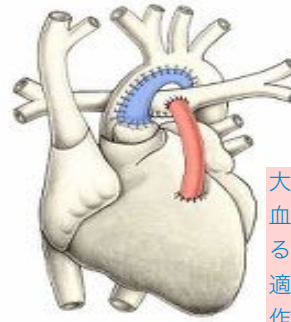
36

## 問題行動には「理由」(機能)がある



37

## 問題行動への対応は 「バイパス手術」のようなもの

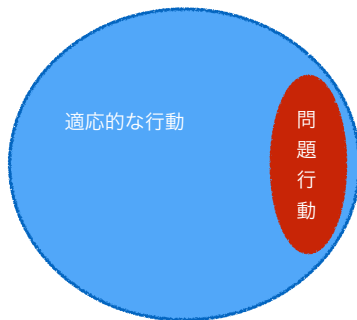


問題行動には  
その人なりの理由や目的、メッ  
セージが込められています

大切なのは  
血(その人のメッセージ)を止め  
ることではなく  
適切な道筋を  
作ってあげること

38

望ましい行動が増えれば、  
相対的に問題行動は減少する



39